虎ノ門交差点を過ぎNCR本社を目指す1975年4月11日、東京・赤坂

被解雇者団・マイクを握るのは高橋赫蔵さん
1975年4月11日、本社前

4.23港総行動に参加　1975年4月23日

ビラを配布しながら進む　1975年4月11日、東京・霞ヶ関

4.23港総行動・NCR本社に抗議行動　1975年4月23日

被解雇者団　1975年4月11日、東京・赤坂

NCR本社前で座り込み抗議行動　1975年4月23日

第20回定期全国大会

1975年7月27日　南部労政会館

75年４月30日ベトナム戦争はサイゴンが陥落して終了し、アメリカの力の政策は完全に破綻しました。

日本では田中内閣の列島改造・高度成長・インフレ政策が破綻し、三木内閣に代わりました。大独占本位の総需要抑制政策が強行され、不況から低成長へと大きく周りの情勢は変化していきました。深刻な不況のしわ寄せは労働者と中小・下請企業に押しつけられ、一方では公共料金をはじめ諸物価が大幅値上げされるという不況とインフレの同時進行が政府と資本によって行われました。

この年の一斉地方選挙で神奈川に革新県政が実現し、日本の主要都市、人口の４割が革新自治体となりました。しかし、自民党は革新の前進をはばむべく、小選挙区制導入のために公選法の改悪を強行採決し、これに野党第一党の社会党が賛成しました。

政治情勢は労働運動の動向にも影響し、全国金属労働組合の内部にも深刻な事態が起きていました。主要拠点支部には労使協調をかかげたインフォーマル組織により内部からの攻撃が行われ、会社による組合の組織破壊の攻撃も行われました。

賃上げ秋から春闘に転換

75年秋の賃上げ、一時金、雇用安定、時間短縮要求は、たたかう体制を盛り上げて取り組みました。特に10月にはエヌシーアール、IBM、渡辺製鋼、ヤシカの４社抗議を主体とした港総行動を組織し精力的にたたかいました。

会社はエヌシーアールの決算期に合せた従来の11月20日の賃金改訂を改め「来春からは春闘（３月20日付）で賃金改訂を行なう。今回は定昇のみを行なう。時短については１月・２月、７月・８月の４ヶ月間を週38時間45分とし、大磯工場も完全週休２日制にする」と回答してきました。年末一時金は3.1ヶ月とし、不況を理由に12月と１月に分割払いをしてきました。

賃金改定時期の変更は、春闘を無視したエヌシーアール独自の賃上げ時期の矛盾がはっきりしたためであり、様々な要求と不当解雇撤回をかかげて３年まえから春闘を闘ってきた成果でした。

エヌシーアールの状況としては、レジスターなど一般事務機の売上比率が低下、コンピューターや端末機が主体となる変化があらわれはじめていました。不況の長期化の中で新規採用を大巾に減らす雇用調整が行なわれました。

関東支部ではエレキの講習に参加していない技術員全員を対象にエレキマシーンのスクールを行うことを要求し、９月９日の団体交渉で技術部に検討を約束させ、フィールドスクールを実現しました。その結果全国の技術員のメカからエレキへの転換を可能にし、会社・管理職による組合員差別と脅しの政策を修正させました。

第20回定期全国大会　1975（S50）年	
委員長	堀江　和夫
副委員長	嶋田　秀尚
書記長	堀川　重晴
副書記長	小川　純二
会計	名雪　道男

第20回定期大会　1975年7月27日、南部労政会館